



ヨーロッパ日本語教育

JAPANESE LANGUAGE EDUCATION
IN EUROPE

12

2007 日本語教育シンポジウム
第12回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム
第10回BATJ発表大会

報告・発表論文集

The Proceedings of
the 2007 Symposium on Japanese Language Education
6-8 September 2007

2007

ヨーロッパ日本語教師会
Association of Japanese Language Teachers in Europe (AJE)

英国日本語教育学会
The British Association for Teaching Japanese as a Foreign Language (BATJ)

目次

はじめに	3
山下美代子 (シンポジウム実行委員代表)	
シンポジウムプログラム	7
開会式 来賓挨拶	11
野上義二 (駐英日本国特命全権大使)	
松永文夫 (国際交流基金ロンドン事務所所長)	
Stephen McEnally (Chief Executive of the Great Britain Sasakawa Foundation)	
Paul Webley (Director & Principal of SOAS, University of London)	
AJE 会長挨拶	マダドナーめぐみ (ヨーロッパ日本語教師会会長)
《講演・ワークショップ要旨》	
基調講演: 「主語と主題 (題目語)」	19
尾上圭介 (東京大学教授)	
招待講演: 「IT 化と日本の社会」	30
正高信男 (京都大学教授)	
招待講演: 「近世の日本語 - 魅力と難所」	37
アンドリュウ・ガーストル (ロンドン大学 SOAS 教授)	
ワークショップ要旨: 「話しことばと書きことば」	46
尾上圭介 (東京大学教授)	
ワークショップ要旨: 「e-ラーニングによる日本語教育」	47
正高信男 (京都大学教授)	
《口頭発表論文・論文要旨》	
L2 Japanese Acquisition of the Pragmatics of Requests during a Short-term Study Abroad	51
IWASAKI, Noriko (University of California at Davis/ School of Oriental and African Studies, University of London)	
WEB を利用した日本語作文学習と指導の実践報告	
「掲示板」(forum) 上での遠隔 (スペインと日本) コミュニケーション	59
鈴木裕子 (マドリード・コンプルテンセ大学)	
寺田裕子 (慶應義塾大学) 福田牧子 (バルセロナ自治大学)	
加藤貴之 (慶應義塾大学)	
教室談話と学習ピリーフの分析 - 海外日本語教師の相互研修のために -	66
高崎三千代 (国際交流基金ローマ日本文化会館)	
漢字 3,000 字の単語数調査と単語一覧表の作成	73
徳弘康代 (早稲田大学)	
質的研究法による「compliment/ほめ」と「ポライトネス」の分析: 異文化間行為研究への新たなアプローチ	
- 日本人と欧米人との接触場面におけるコミュニケーションを中心に -	79
ミハイロヴァ・ユリア (一橋大学)	
日仏大学生によるテレビ会議を利用した遠隔交流報告 その可能性と課題	86
國枝孝弘 (慶應義塾大学) 田中綾乃 (パリ第 7 大学)	

日本語の複文における従属節の音調	91
代田智恵子 (パリ第3大学大学院)	
機能シラバスにおける「できること」とは何か	98
奥村三菜子 (ボン大学東洋言語研究所)	
新聞記事のジャンルの特性 –中・上級の読解指導の応用に向けて–	105
立川和美 (流通経済大学)	
学習者は留学を経てどう変わるか	
–フランス語母語話者学習者を対象とした留学前・留学後の中間言語の比較研究– ...	112
東伴子、竹内泰子 (グルノーブル・スタンダード第3大学)	
教室におけるタスクの繰り返しの効果 –繰り返しの過程で何が習得されるのか–	119
百濟正和 (カーディフ大学)	
英国で継承語として日本語を学んでいるバイリンガルの子供たち	
–主要言語と少数言語間に存在するパワーレレーションの観点から–	126
森口祐子 (ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ)	
文脈が慣用句の意味理解・習得に及ぼす影響について	
–慣用句の効果的な教え方について考える–	133
岡田朋記 (シンガポール国立大学)	
mixi (ミクシィ) を使った作文クラスとその効果	141
大枝由佳 (リーズ大学)	
学習者オートノミーを促す授業作り：関西弁紹介からの展開	148
山元淑乃 (リール第3大学)	
北川利彦 (チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学)	
Systematic Aspects of L2 Performance of Japanese:	
Acquisition of demonstratives and sentence-final particles.....	154
KIZU, Mika	
(School of Oriental and African Studies, University of London)	
参加者の多文化・多言語背景をリソースとして生かした授業実践	
–メディア・リテラシーの育成をめざす「現代大衆文化」–	162
石塚美枝 (桜美林大学) 宮副ウオン裕子 (桜美林大学)	
守谷智美 (お茶の水女子大学)	
「KK 2.0 (KanjiKreativ) Eラーニング：1945 常用漢文字学習プログラム」	
–体系的・増分式「識字力育成」が日本語教育に齎すインパクト–	169
山田ボヒネック頼子 (ベルリン自由大学)	
日本人の議論の展開と言語表現選択における傾向	
–対照言語・対照修辞学的観点から–	176
牛山和子 (グルノーブル・スタンダード第3大学)	
CEFR/ELP 能力査定基準の日本語スキル査定への応用を探る –A1の漢字について– ...	183
スルツベルゲル三木佐和子	
(ブルグドルフ高校/チューリッヒ大学/ベルン市民大学)	
試験シラバスから教材シラバスをつくる	
–GCSE日本語リソース「カ-CHIKARA-」のシラバス開発–	189
来嶋洋美 (国際交流基金ロンドン日本語センター)	
論文要旨	196

《ポスター発表要旨》

コンピュータ適応型日本語テスト (J-CAT) 文字語彙問題アイテム作成経過報告	209
赤木彌生 (山口大学)	
イタリア人日本語学習者の作文指導のために - 日本語作文の傾向とその分析から - ...	209
新井優子、醍醐詩織	
(カタールニア大学外国語外国文学部ラグーザ校)	
中級日本語聴解コンピュータ教材 (IJLC) の授業実践から見えてきたもの - 授業形態に対する学習者の要望とブレンディッド・ラーニング -	210
石崎俊子 (名古屋大学)	
欧州における日本語教師研修会の意義と課題	210
夷石寿賀子、北條淳子 (国際交流基金パリ日本文化会館)	
日本語と日本事情の連携 - 異文化間コミュニケーション論の観点から -	211
梅田康子、佐藤良子 (愛知大学)	
日本留学予備軍の学習者が持つ日本語学習への期待	211
近藤安月子 (東京大学) 丸山千歌 (横浜国立大学)	
ピッツィコーニ・バルバラ (ロンドン大学 SOAS)	
第二第三外国語学習における学習意欲向上のための教室外活動 - 協働学習の可能性と課題 -	212
佐藤紀子、セーカーチ・アンナ、ヒダシ・ユディット	
(ブダペスト商科大学)	
学習成績と授業外活動の相関 - 成績不振者を授業外でサポートするには? -	212
猿渡晶子 (マールブルク大学)	
日本語教育実践コースのデザイン 自律的・協働的学習者コミュニティーの構築	213
村野良子 (学習院大学)	
教師教育者の自己教育能力向上へ向けて - 課題探究型アクション・リサーチを通じた教師教育者の行動変容過程の一例から - ...	213
山田智久	
(北海道大学国際広報メディア・観光学院 / 北海学園大学)	
AJE 案内	215
BATJ 案内	216

学習者オートノミーを促す授業作り：関西弁紹介からの展開

山元淑乃 リール第三大学、フランス
北川利彦 チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学、トルコ

1. はじめに

日本のポップカルチャーの浸透により、若者言葉や方言など日本語の多様性に興味を持っている学習者は多い。自己の興味に適合したリソースによる学習は動機や学習効果の向上に寄与するが、インターネットの普及に伴い多様化する言語学習リソースの中で、学習目的に見合った適切なものを探し出せない学習者も少なくないと思われる。そこで筆者らはミュージック・ビデオを利用して一単元の授業内で関西弁の特徴を紹介し、学習目的設定とリソース探索を支援することにより学習者オートノミーの促進を試みた。

2. 学習者オートノミー

学習者オートノミーとは、自分のニーズや希望に役立つようにどのように学ぶか、学習の成果をどのように評価するかを決定し、その学習計画を実行する能力であると青木（2001:p.189）は定義している。また梅田（2005:p.60）は、学習者オートノミーは人が生まれ持つ能力ではなく、成人だからと言って自律性が高いとは限らないと述べており、教師が学習環境の整備を行い、オートノミーの養成・支援する必要性を指摘している。

また学習者オートノミーに関して、近年多くの研究がされている。廣森（2001）は「自律した学習者」というのは、あくまで最終的に学習者あるいは外国語教育自体が目指す「理想的な学習者像」であり、まずは「自律へのレディネス」を整えることが重要であると結論付けている。Bélisle（2002）は、デジタル情報を扱う能力やそれらの情報を利用して目的に合った学習をする能力を身につけるには、教師の仲介が必要であるとしている。スザナ（2006）は、翻訳遂行過程で使用されるリソースの活用状況を調査し、学習者が日常的に活用しているリソースはあまり種類が多くないこと、リソースの使い方に未熟な面が見られることを指摘している。

これらの先行研究から判断しても、リソース探索、利用のための指導を実施することは学習者オートノミーの育成に必要なことであり、実践してみる価値があると考えた。

3. 教室での実践

3.1 学習目標と実施機関

学習の目的を、①日本語の多様性への接触、②関西弁理解の自信形成、③学習動機の向上、④学習者オートノミーの育成、の四つに設定し、授業内での反応とその後の学習行動を観察した。ほぼ同一内容の授業を、フランス国立リール第三大学（グループ1、以下リール三）とトルコ国立チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学（グループ2、以下チャナッカレ）において実施した。

3.2 対象学習者

リール三は、第一言語がフランス語で、日本学主専攻の二年生 15 名を対象とした。チャナッカレは、第一言語がトルコ語で、日本語教育主専攻の予備課程（一年生に相当）14 名を対象に行った。両機関とも初級の教科書として『みんなの日本語』を使用しており、リール三では第 2 巻終了後、チャナッカレでは第 2 巻終了間際の段階でこの活動を実施した。

3.3 関西弁と教材

関西弁はおそらく共通語に次いで話者が多い方言であろう。欧州でもテレビドラマ等で学習者が関西弁に接触する機会が以前より増えているが、インターネットの普及がこれに拍車をかけているように思われる。またリール三の学期始めのアンケート調査で「関西弁に興味はあっても自分には難しすぎる」と諦めている学習者が多いことが明らかになった。以上の理由から、関西弁を取り上げることにした。

教材にはウルフルズの『大阪ストラット』のミュージック・ビデオを使用した。理由としては、まず歌詞に関西弁の重要な文法項目が含まれていること、2 つ目に曲の途中に台詞がありイントネーションも学習できること、3 つ目に曲の長さが 5 分弱と授業でも扱いやすいこと、4 つ目にはミュージック・ビデオを通して大阪のイメージを視覚的に提示できることが挙げられる。

ミュージック・ビデオを通して関西弁の特徴を概観した後は、動画共有サイト YouTube を使用し、関西弁のテレビ番組から短く、ストーリーの分かりやすいコント、例えば、お笑い芸人ダウタウンのテレビ番組「ごっつええ感じ」から「おかんとマー君」等を紹介し、興味を持てたら視聴するように促した。

3.4 授業の流れ

教室活動を実施するにあたり、他の学習項目との兼ね合いから、1 回 90 分の授業で完結するよう構成した。手順は以下の通りである。

- 1) ミュージック・ビデオの視聴
- 2) 歌詞を追いながら、関西弁抽出と共通語における相対語の推測
- 3) 関西弁の文法規則の帰納的学習
- 4) 関西弁と共通語のイントネーションにおける相違点の発見
- 5) ミュージック・ビデオの再視聴
- 6) 関西弁が話されている動画の紹介

4. 学習者の反応

授業終了後、以下の質問を中心に、自由記述式のアンケートを行った。調査対象は受講者全員である。調査項目の主な内容は付録を参照してほしい。

- ① 授業に対する評価（よかったか／よくなかったか、役立ったか／役立たなかったか、面白くなかったか等）とその理由
- ② 今後も関西弁の番組を見ようと思うか。またその理由。

質問①について、リール三では、全ての学習者が授業に対して非常に高い評価している。

しかしながらチャナッカレでは意見が分かれ、半数が何らかの否定的な評価を下している。

この要因の一つとして、ルール三では関西に行ったことがある、あるいは近々行くという学習者が大多数を占めるのに対して、チャナッカレでは渡日経験者も予定者もいなかったことが、関西弁への関心や学習の動機に差があったと考えられる。つまりルール三の学習者にとって関西弁は、接触経験がある、近いうちに接触する可能性の高いものであったものに対し、チャナッカレの学習者にとっては完全に「未知との遭遇」であり、学習の必要性が高いものでもなかったと言える。

次に考えられる要因は、教師側の知識である。授業を担当した山元（ルール三）が関西弁話者であるのに対し、北川（チャナッカレ）は関西出身ではなく、関西弁そのものや関西圏の言語的・文化的知識において差があり、授業内における話の展開や説明の質に影響したとも考えられる。具体的には、山元が授業にパワーポイントを用いて、豊富な視覚的資料を元にテンポよく進められたのに対し、北川はミュージック・ビデオ以外に学習支援となるような教材を使用せず、黒板を用いて指導した。

アンケート結果でも、ルール三でパワーポイントが用いられたことに対して「説明が分かりやすかった」「写真があつてよかった」「スピードがよかった」といった肯定的な意見が100%を占めていた。また授業後にパワーポイントファイルを送ることを予め伝えてあったため、学習者がノートを取る必要がなかったことも好評価に繋がったように思われる。「先生が何時間も準備にかけているのが分かる」「元気な先生が活気のある授業を作ってくれたからよかった」といった、教師の労力や姿勢に対するコメントもみられた。

一方、チャナッカレにおいては、こういった視覚的な支援教材を使用しなかったために「分からなかった」「指導が速すぎる」といった否定的な声が大きくなってしまったようだ。歌詞の中に出てくる数々の場所が写真として提示されれば、学習者のイメージも膨らみより身近に感じられたであろうし、語形変化等もきちんと整理した形で提示されなければ、学習者が難しいと感じてしまうのは当然とも言えよう。

質問②に関しては、ルール三では15名中10名が「見る」と答えており、残りの5名は「まだ見ないが、共通語をマスターしてから見る」という結果であった。これに対し、チャナッカレでは14名中10名が「見る」と答えているものの、残りの4名は「見ない」と答えるという興味深い差異が見られた。ルール三では現時点で困難なことを後の課題にしようとする姿勢がみられるが、チャナッカレでは「難しいからしない」という結果になったと言える。この要因の追及は今後の課題とするが、学習環境、動機付け、学習者の価値観など様々な要素が絡んでいるものと推察される。

5. 学習者オートノミーは育成されたか

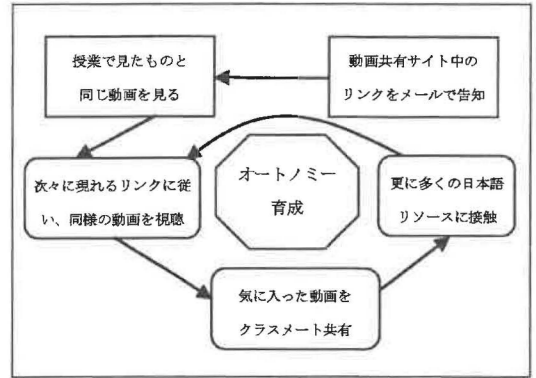
この一つの活動をもって学習者オートノミーが育成されたかを論じるのは不可能である。しかしながら、この活動を通して学習者オートノミー育成において鍵となるいくつかの示唆が得られたと考えている。

まず注目すべきは、ルール三の学習者間において、複数の学習者が自分で見つけた面白い動画をメールで送信し合う光景が観察されていることである。これは動画共有サイトをリソース元として探索させているため、視聴した映像資料を容易に共有できることが大きい。つまり、学習者同士が気に入った映像を教え合い、一学習者からグループ全体への波及効果があり、学習者集団の中で生の日本語リソースが蓄積され、それが日本語への接触を増やすことに繋がっていることが判明したのである（図1）。リソースの迅速な共有は従来の図書のような印刷資料、CDやDVDのような視聴覚資料ではあまり見られなかった行動であり、

学習者のオートノミー育成に寄与するものであると期待できるのではないだろうか。

実際にリアル三ではこの授業が契機となり動画共有サイトで関西弁のお笑い番組を主体的に視聴するようになった学習者も少なくないようだ。現在、本授業の受講者に対する事後調査を実施中であるが「授業で見た『おかんとマー君』のシリーズを YouTube で全部見た」「友達の話す関西弁が少し分かって嬉しかった」「関西の友達と話すときに使ってみた」といった声が寄せられている。

図 1



6. まとめと今後の課題

以上、関西弁と動画共有サイトを触媒とした学習者オートノミー育成のための授業実践について報告した。アンケート結果の比較から、教室での指導が学習者の取り組み意欲に一定の影響を与えている可能性があることが判明した。また自発的なリソース探索への動機付けには、学習者個人の経験や必要性、理解可能と思えることが関わっていることが示唆された。加えて動画共有サイトの特徴であるリソースへのアクセス・共有の容易さが、学習者グループ全体への波及効果を発生させ、自律的なリソース探索活動に大きく寄与しているようだった。

今後はフォローアップインタビューを継続し、教師主導の授業から、学習者が自ら目標と手法を設定し、それらを実行した上で自己診断と評価を行うためにはどういった要素が必要になってくるのか、またその要因は何かを探っていく必要があると思われる。

参考文献

- 青木直子 (1998) 「学習者オートノミーと教師の役割」『分野別専門日本語教育研究会—自律学習をどう支援するか—報告書』, 国際交流基金関西国際センター。
- 青木直子 (2001) 「教師の役割」青木直子・尾崎明人・土岐哲編『日本語教育学を学ぶ人のために』, 世界思想社。
- 板倉ひろこ (1998) 「自律的言語学習の場としての学習日記の活用」『日本語学刊』, 2号, 59-77頁。
- 梅田康子 (2005) 「学習者の自律性を重視した日本語教育コースにおける教師の役割—学部留学生に対する自律学習コース展開の可能性を探る」, 『言語と文化』, 12号, 59-77頁。
- 国立国語研究所監修 (1998) 『日本語教育重要用語 1000』, バベル・プレス。
- スザナ・イスマイル (2006) 「リソースに対する学習者の意識や活用方法に関する事例研究—自律学習の支援に向け」, 『日本言語文化研究会論集』, 137-163頁。
- 廣森友人 (2001) 「外国語教育における自律学習とそれを支える関連諸要因について」, 『HELES JOURNAL』, 1号, 35-47頁。
- Bélisle, C. (2002) "La formation ouverte et à distance à l'heure du numérique." *Actualité de la formation permanente*, 180, 27-32.

付録

質問① アンケート結果

	リール三 (フランス)	チャナッカレ (トルコ)
① 授業 に対する 評価	<p>良い評価 (15/15)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ とても面白かった。 ◎ すばらしかった／よかった／完璧だった。 ◎ 「みんなの日本語」は文法の基礎を学ぶにはよかったが、日本語はつまらなかった。この授業で、日本語が生きている言葉だと思えた。 ◎ 授業の進め方もとても楽しかった。 ◎ 関西弁で喋っている日本人が大勢いるので、日本学を勉強する学生たちにとってはとてもいい。 ◎ もうすぐに関西に行くつもりなので役に立つ。 ◎ 関西弁は難しいが、色々な方言を知るのは大事で、大阪弁を聞く機会はなかったので役立った。 ◎ 歌のクリップを使ったのもよかった。 ◎ 他の理論的な授業より、役立つし、興味がわいた。 ◎ 将来にも役に立つと思う。この授業で教えてもらったことは、教科書には書いていないから。 ◎ 方言を知るのは大事だと思った。 ◎ 関西弁は初めて聞いたが、今まで勉強した方言と違って面白。 ◎ 簡単すぎず難しすぎないレベルが良かった。 ◎ 今まで何人も関西人に会ったが、何を言っているか分からなかったが、お陰で少し分かるようになったと思う。 ◎ とても教育的な授業で、本当に面白かった。 ◎ 日本語にはそんなに違う方言があるとは、本には書いてない。この授業のお陰で、日本語がまだ生きている言葉だと実感できた。 ◎ 共通語と関西弁にそれほど違いがあるとは知らなかったなので、すごく面白かった。 	<p>良い評価 (7/14)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ よかった／面白かった／とても楽しかった／刺激的だった。 ◎ 日本語について新しいことを習うのは良かった。 ◎ トルコでも同じだから面白かった。 ◎ 日本について色々学ぶために大学に来ているので、楽しめた。 ◎ 関西弁は難しかったが、ビデオで理解しやすかった。 ◎ 行く前に土地の方言を習っておけば、現地に行ってショックを受けない。 <p>中間 (3/14)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 役に立つと思わないが、面白かった ◎ 面白かったし役に立つと思うが、今は早過ぎる。たのしかつたが、あまり分からなかった。 ◎ 新しい方言を学ぶのはいいと思ったが、将来、その地域に行くなら役に立つし、分かるだろう。
		<p>良くない評価 (4/14)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ しらない。へんな言葉があったから。 ◎ ほとんどわからなかった。 ◎ 何も分からなかった。 ◎ 役に立たないと思う。 ◎ 指導が速過ぎた。 ◎ トルコ人の宗教感に合わない。

質問② アンケート結果

	リール三 (フランス)	チャナッカレ (トルコ)
② 今後も 関西弁の 番組を見る か	<p>見る (10/15)</p> <ul style="list-style-type: none"> ☺ 見ると思う／ぜひ見たい／見てみたい。 ☺ こういう番組を見ながら耳が色々な日本語のスタイルに慣れたらいいと思う。 ☺ 見つかったら見たい。 ☺ 関東の番組はわかりにくいので、この授業のお陰で関西の番組を見たくなった。 ☺ 発音は楽しいと思うので、いい練習だった。 ☺ 今から見てみたいと思う。 ☺ 面白かったので、出来るだけ見てみようと思う。 	<p>見る (10/14)</p> <ul style="list-style-type: none"> ☺ 見てみたい／ぜひ見たい。 ☺ 面白そうだから見たい。 ☺ 学ぶためや使うためじゃなくて、面白そうだから。 ☺ 日本語に興味があるから見たい。 ☺ 役に立つと思うから見たい。 ☺ 気に入ったし、楽しかったから見たい。 ☺ 関西弁を使うのはいいと思うから、見たい。
	<p>まだ見ない (5/15)</p> <ul style="list-style-type: none"> ☺ まず標準語をマスターしてから見たい。 ☺ 機会があれば見たいが、今は、関西弁は違う言葉に聞こえるから、まだ難しい。 ☺ 字幕があるものが少なくて、関西人は喋るのが速すぎるから、まだ分からないと思う。 	<p>見ない (4/14)</p> <ul style="list-style-type: none"> ☺ 役に立たないと思う。 ☺ 正直言ってよくなかった。 ☺ 見たくない。共通語と全然似ていないから。 ☺ 複雑で分からないから、見たくない。 ☺ 何も分からないと思うから、見たくない。